令和 8 年度 第 1 回神奈川県がん教育推進協議会 議事録
日時: 2026 年 7 月 17 日
開催方式: オンライン開催

1. 開会および挨拶
田中（事務局）:
それでは、お時間になりましたので、ただいまより「令和 8 年度 第 1 回神奈川県がん教育推進協議会」を開会いたします。
はじめに、教育局指導部保健体育課長の瀬尾より、開会の挨拶をさせていただきます。

瀬尾（保健体育課長）:
皆様、こんにちは。神奈川県教育委員会保健体育課長の瀬尾でございます。よろしくお願いいたします。
本日は大変お忙しい中、令和 8 年度 第 1 回神奈川県がん教育推進協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。今年度も昨年に引き続きまして、オンラインでの開催となっております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、神奈川県教育委員会では、平成 26 年度から文部科学省のがん教育総合支援事業を受託いたしまして、がん・疾病対策課と連携を図りながら、教員の研修の実施、外部講師を活用した授業の実施、そして教材の作成に取り組んでまいりました。これらの活動は、皆様方のご協力をいただきながら進められております。心より感謝申し上げます。

昨年度は、外部講師を活用したがん教育の公開授業を県内 30 校で実施いたしました。また、神奈川県独自のがん教育動画教材を追加で作成いたしまして、各学校での活用を促進しております。さらに外部講師の養成といたしまして、神奈川県がん患者団体連合会、がん・疾病対策課、そして民間製薬会社と連携し、がんの経験者や医療関係者向けの指導者研修を実施しているところです。

本日の協議会では、皆様から多くのご意見をいただきながら、学校におけるがん教育について共に考えてまいりたいと存じます。今後とも神奈川県におけるがん教育の推進に向けて、専門的な視点からのご意見を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。本日はよろしくお願いいたします。

2. 出席者紹介および資料確認
田中（事務局）:
瀬尾課長、ありがとうございました。

改めまして、本日司会を務めさせていただきます、県教育委員会保健体育課の田中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず始めに、資料の確認をさせていただきます。事前に電子データにて送付させていただきましたが、ファイル名等に誤りがあったため、一部の資料を再送させていただいております。

資料 1: 令和 7 年度 外部講師を活用したがん教育等現代的健康課題理解増進事業 成果報告について
資料 2: 令和 8 年度 現代的な健康課題（がん教育等）理解増進事業計画について
資料 3: 令和 8 年度 神奈川県がん教育指導者研修講座（教員向け）開催要綱について
資料 4: 令和 8 年度 神奈川県外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進に向けた事業に関わる実施校募集要綱について
資料 5: がん教育動画教材の活用について
資料 6: 外部講師養成について
本日はこれらの資料を画面共有しながら進めさせていただきます。

続きまして、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。

群馬大学大学院情報学研究科准教授　兼 神奈川県立がんセンター 臨床研究所 がん教育ユニット ユニット長　兼）国立がん研究センターがん対策研究所：片山様
日本女子体育大学 体育学部 スポーツ健康学科 教授：助友（すけとも）様
北里大学 医学部 新医療開発センター 臨床腫瘍学 教授：佐々木様
神奈川県がん患者団体連合会 事務局長：長谷川様
特定非営利活動法人 横浜こどもホスピスプロジェクト 代表理事：田川様
神奈川県医師会：渡辺様（※現在 Zoom 未入室）
神奈川県 PTA 協議会 執行役員：蛭田様
神奈川県中学校体育連盟 研究部会 部会長：二戸（にと）様
神奈川県学校保健連合会 養護教諭部会 部会長：山田様
神奈川県福祉子どもみらい部 私学振興課長：田中様（本日は滝沢指導主事が代理出席）
神奈川県教育委員会 教育局 支援部 子ども教育支援課長：本間様（本日は大島教育指導員が代理出席）
健康医療局 保健医療部 がん・疾病対策課長：津島様（本日は鈴木副課長、近藤主任主事が代理出席）
教育局 指導部 保健体育課長：瀬尾
今年度初めての協議会となりますので、委員の皆様より一言ずつご挨拶をいただけますで

しょうか。ご紹介した順にお願いいたします。恐れ入りますが、片山様からよろしくお願いいたします。

片山委員:
群馬大学大学院情報学研究科の片山と申します。今年度も引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。少し所属の表記（情報学部情報学科）が変わっておりますが、問題ございません。よろしくお願いいたします。

助友委員:
日本女子体育大学の助友と申します。大学では保健体育の教員養成をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

長谷川委員:
神奈川県がん患者団体連合会事務局長の長谷川です。私自身もがんのサバイバー（患者）です。よろしくお願いいたします。

田川委員:
皆様、こんにちは。認定 NPO 法人 横浜こどもホスピスプロジェクトの田川と申します。私自身もがん患者本人でございます。どうぞよろしくお願いします。

蛭田委員:
皆様、こんにちは。神奈川県 PTA 協議会の執行役員を仰せつかっております、蛭田です。今年度で 2 年目か 3 年目になります。私自身はがん患者ではありませんが、がんを患った家族がおります。よろしくお願いいたします。

二戸委員:
神奈川県中体連（中学校体育連盟）研究部の二戸と申します。昨年度から引き続きとなります。よろしくお願いいたします。

山田委員:
神奈川県学校保健連合会 養護教諭部会の山田と申します。本日はちょうど中学校の 1 学期終業式の日で、周りの子どもたちが終業式を終えて少しざわざわしておりますが、聞こえておりますでしょうか。私はこの協議会への参加が初めてですので、たくさんのことを勉強させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

瀧澤氏（私学振興課・代理）:

私学振興課主幹の滝沢と申します。よろしくお願いいたします。

大島氏（子ども教育支援課・代理）:
神奈川県教育委員会の子ども教育支援課から参りました、大島でございます。よろしくお願いいたします。

鈴木氏（がん・疾病対策課・代理）:
がん・疾病対策課の鈴木と申します。課長の津島が本日不在のため、代理で出席させていただきます。よろしくお願いいたします。

近藤氏（がん・疾病対策課）:
がん・疾病対策課の近藤です。本年度、がん・疾病対策課でがん教育を担当いたします。よろしくお願いいたします。

佐々木委員:
遅れまして大変失礼いたしました。北里大学の佐々木です。どうぞよろしくお願いいたします。

瀬尾委員（保健体育課長）:
先ほどもご挨拶させていただきましたが、保健体育課長の瀬尾でございます。今年度着任いたしました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

3. 座長および副座長の選出
田中（事務局）:
委員の皆様、ありがとうございました。なお、医師会の渡辺様は現時点でまだ Zoom に入られておりませんので、参加されましたらご紹介させていただきます。

それでは、座長の選出に入らせていただきます。
座長につきましては、事務局案といたしまして、神奈川県において中心となってがん教育を推進していただいている、県立がんセンターおよび群馬大学に所属されております片山先生をご提案させていただきます。委員の皆様、いかがでしょうか。ご承認いただける方は、Zoom のリアクションボタンで拍手を押していただくか、画面越しに拍手をいただければと思います。

(委員の皆様による拍手)

田中（事務局）:
ありがとうございます。賛成多数と認めます。それでは、委員の皆様のご推薦により、片山委員に本協議会の座長をお願いいたします。片山先生、どうぞよろしくお願いいたします。ここからの進行は座長にお願いいたします。

片山座長:
皆様、本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。今年度もがん教育推進協議会の座長を務めさせていただくことになりました、群馬大学の片山でございます。実は座長を務めさせていただくのは今年度で 6 年目となります。どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

学校の学習指導要領にがん教育が位置づけられてから約 10 年が経過したところですが、今年度も神奈川県のがん教育をさらに充実させるために、皆様のお力を借りながら実りある協議会にしたいと考えております。本日も忌憚のないご意見をたくさんいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、さっそく進行に移らせていただきます。
次に、副座長の選出について諮りたいと思います。私の方から指名をさせていただきます。副座長には学校教育に精通されている委員が適任かと思いますので、瀬尾委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

瀬尾委員:
はい。私の方でよろしければ、お引き受けさせていただきます。よろしくお願いいたします。

片山座長:
ありがとうございます。それでは、皆様のご承認をいただき、瀬尾委員に副座長にご就任いただきます。よろしくお願いいたします。

なお、本日の審議につきましては原則公開としておりますが、取り扱う内容によっては非公開とさせていただく場合がございます。また、本協議会に対して情報公開請求があった場合には、議事録および資料は行政として情報公開の対象となりますので、委員の皆様にはあらかじめご承知おきいただきたいと思います。

それでは、本日の議題に入ってまいります。

4. 報告事項
(1) 令和 7 年度 外部講師を活用したがん教育等現代的健康課題理解増進事業 成果報告
片山座長:
最初の報告事項は「令和 7 年度 外部講師を活用したがん教育等現代的健康課題理解増進事業 成果報告について」です。事務局より説明をお願いいたします。

大矢（事務局）:
県教育委員会保健体育課 保健安全グループの大矢と申します。今年度もがん教育を担当させていただきます。よろしくお願いいたします。
それでは、画面共有をしてご報告いたします。資料 1 をご覧ください。

昨年度（令和 7 年度）の事業報告についてです。
昨年度のがん教育協議会につきましては、第 1 回を 7 月 15 日、第 2 回を 1 月 27 日に開催いたしました。
また、県教育委員会としての取り組みといたしましては、教員向けに「がん教育指導者研修講座」を 1 回実施いたしました。参加者は 257 名でした。講師は片山先生、県立がんセンターの氷室先生、そして神奈川県がん患者団体連合会の長谷川様にご講義いただきました。この研修につきましては、県立高校における参加を、これまでの希望制から「各校から必ず 1 名以上参加する悉皆（しっかい）研修」へ変更し、参加を促しております。

また、公開授業における取り組みとして、外部講師を活用したがん教育の授業は、昨年度は県内 30 校で実施いたしました。各地域での実施状況につきましては資料に記載の通りです。
参考までに、過去の実施校数の推移を述べますと、
令和 3 年度: 4 校
令和 4 年度: 12 校
令和 5 年度: 30 校
令和 6 年度: 39 校 となっております。（昨年度は 30 校での実施となりました。）
私からの報告は以上となります。
片山座長:
大矢先生、ありがとうございました。ただいまの報告について、ご質問やご意見はございますでしょうか。
特になければ、次の議題に参りたいと思います。

5. 協議事項
(1) 令和 8 年度 現代的な健康課題（がん教育等）理解増進事業計画について

片山座長:
それでは協議事項に入ります。「令和 8 年度 現代的な健康課題（がん教育等）理解増進事業計画について」、事務局より説明をお願いいたします。

大矢（事務局）:
資料 2「令和 8 年度 現代的な健康課題（がん教育等）理解増進事業計画について」を画面共有いたします。
本年度の事業計画の概要は、以下の通りです。

がん教育教材の改訂、および「神奈川県がん教育動画教材」の更新と周知
がん教育協議会の開催
教員向け研修会の開催
学校における外部講師を活用したがん教育授業の実施
本事業は文部科学省からの委託事業となっており、本県との契約期間は 5 月末から来年（令和 9 年）2 月 26 日までとなっております。この期間内に、各種研修や協議会、そして外部講師を活用したがん教育の授業を展開していきます。授業の実施時期としては、本年 6 月から来年 1 月下旬、または 2 月上旬にかけて順次展開していく予定です。

昨年度の実施校数は 30 校でしたが、今年度は計画段階で文部科学省側から経費削減の要請があり、当初の予定だった 40 校から、計画上は 35 校を目標として設定しております。なお、現在の申し込み状況は、6 月下旬時点で 29 校となっており、現在学校側と日程等の調整を進めている状況です。

ここで、本委託事業のメニューについての補足です。
国の委託要綱には、以下の 3 つのメニューがあります。

メニュー1（必須）: がん教育の推進（外部講師を活用したがん教育授業など）
メニュー2: 外部講師を活用した生活習慣病の予防や健康に関する学習
メニュー3: 外部講師を活用し、難病、てんかん、精神疾患、摂食障害などの多様な病気を抱える人々への共感的理解を深め、共に生きる社会づくりに向けた取り組み（献血への理解など）
神奈川県といたしましては、今年度も引き続き「メニュー1」のがん教育を主軸とした取り組みを計画し、国に申請をしております。私からの説明は以上です。

片山座長:
ありがとうございます。今のご説明に関して、ご質問やご意見がある方はいらっしゃいま

すでしょうか。

助友委員:
よろしいでしょうか。なぜ今年度から、事業名がカッコ書きの「(がん教育等)」という表現になったのか、その理由や背景を教えていただけますでしょうか。

また、がん教育が約 10 年進んできた中で、保健体育を中心としたがん教育の充実を進める一方で、神奈川県としては今後、精神疾患や難病など他の当事者とも連携した取り組みに広げていく議論をしていくのか、それともやはり「がん」にこだわって深めていくのか、その方向性の認識を合わせておきたいと思いました。

次期学習指導要領の改訂議論が中教審（中央教育審議会）で終盤に入っており、おそらく年内には答申が出て、来年中に順次改訂作業が進む流れになります。その際、カリキュラム・オーバーロード（教育内容の過密化）が問題視されているため、保健の授業内容も整理される可能性があります。そうした中で、県としてモデル校等で他の疾患も取り入れる予定があるのか、その方向性についてお聞きしたいです。

大矢（事務局）:
ご質問ありがとうございます。まず背景といたしましては、おっしゃる通り国の事業自体がもともと現代的健康課題全体をカバーする位置づけであり、その中にがん教育が含まれているという関係性から、名称が整理されたという経緯がございます。子供たちがヘルスリテラシーを身につける上で、何を題材として学ぶかという中で整理されたものと認識しております。

今後の県の方向性についてですが、まず本協議会は「がん教育推進協議会」ですので、難病や精神疾患を直接扱う協議会ではございません。事業としてはメニュー1 を軸に進めてまいりますが、今後他疾患へ広げる可能性について、私個人としては、もしメニュー2 やメニュー3 を県として受託し、実施していくことになれば、事前に教員研修を行ったり指導ツールを検討したりする必要が出てくると考えております。

保健体育課の中には、私ども「保健安全グループ」のほかに、実技や授業の指導・助言を所管する「学校体育指導グループ」がございます。そちらのグループとも緊密に連携・検討を重ねる必要がありますし、他疾患を扱うとなれば協議会のあり方の見直しや、異なる専門家の方をお呼びすることにもなるかと思います。他県の様子も確認しながら、まずは検討課題として持ち帰らせていただきたいと思います。現状、ニーズがある内容であることは確かですので、否定はせず、検討を続けるというお答えになります。

長谷川委員:
神奈川県がんサバイバー外部講師の長谷川です。今の助友先生のご発言に関連して質問ですが、他県の状況はどうなっているのでしょうか。各県が独自性を持ってどんどん他疾患も含めて進めている状況なのか、あるいは、これまでの「がん教育」をようやく進めてきたという段階なのか、全国的な温度感や先進事例があれば教えていただけますでしょうか。

助友委員:
他県の状況についてですが、私の認識では、神奈川県のがん教育は非常に進んでおり、全国の先進的な取り組みを集約している立場にあると理解しています。国（文科省）や日本学校保健会が主催する全国指導主事会議などでも、神奈川県の報告事例や授業実践がモデルとして導入・発信されている状況です。

神奈川県は教員研修が非常に行き届いており、また日本学校保健会が授業実践動画を提供する際にも、神奈川のモデルがベースとなっています。外部講師の受け入れ態勢や環境整備についても神奈川県モデルは完成度が高いため、もっと全国に発信して良いのではないかと考えています。

片山座長:
ありがとうございます。私からも補足しますと、全国的には「がん教育等」と名称が変わっても、予算や体制の制約から「メニュー1（がん教育)」のみで手一杯、あるいはメニュー1 に留まっている都道府県が大多数であると感じます。他の難病や精神疾患を取り入れるとなれば、協議会の構成員を大幅に入れ替えるか、別組織を立ち上げるなどの大きな改革が必要になります。

ですので、事務局から説明があったように、神奈川県としては当面「メニュー1」を最重点として推進し、メニュー2・3 については、県の中で長期的な検討課題として揉んでいただくということで、助友先生、よろしいでしょうか。

助友委員:
はい、その整理で結構です。ありがとうございます。

瀬尾委員（保健体育課長）:
保健体育課長の瀬尾でございます。ただいまの県の方向性に関連して、一言補足させていただきます。

高校の保健の授業など現場の状況を見ますと、残念ながら、がん教育を「保健の授業の単なる一コマ」としか捉えていない学校もまだ見受けられます。
神奈川県としては、がん教育を「教科横断的」に取り組むこと、あるいは「総合的な探究の時間」や学年・学校全体を巻き込んだ活動へと広げていくことを目指しております。そうした質的な広がりや深まりを実現するためにも、県としては当面、この「メニュー1」にリソースを集中させ、重点的にやっていくべきだと感じております。

片山座長:
瀬尾委員、大変心強いお言葉をありがとうございます。神奈川県の強み・独自性である「教科横断型」の取り組み（カリキュラム・マネジメントの中で保健体育以外の教科でもがんを扱うなど）は、他県にない素晴らしい挑戦ですので、ぜひこの方向性で引き続き推進してまいりましょう。

(2) 令和 8 年度 神奈川県がん教育指導者研修講座（教員向け）開催要綱について
片山座長:
続きまして、議題「令和 8 年度 神奈川県がん教育指導者研修講座（教員向け）開催要綱について」、事務局より説明をお願いいたします。

大矢（事務局）:
資料 3「令和 8 年度 神奈川県がん教育指導者研修講座 開催要綱」を画面共有いたします。
本研修は、主に県内の教職員を対象とした指導者研修です。県立高校につきましては、昨年度より「1 校あたり 1 名以上必ず受講する」悉皆（しっかい）研修として位置づけております。

今年度の工夫といたしましては、より多くの教職員が受講しやすくなるよう、オンデマンドの動画視聴（配信）期間を、夏季休業期間から「9 月末（9 月 30 日)」まで延長いたしました。

研修の内容は以下の通りです。

行政説明（保健体育課）: がん教育動画教材の活用、および外部講師の活用方法についての説明。
講義 1（助友先生）: 各教科等におけるがん教育の実践と外部講師の活用について。
講義 2（長谷川様）: 実際の外部講師による授業の様子、および外部講師活用における学校側の配慮事項や、事前の打ち合わせ・申し込みの進め方についての解説。

外部講師の活用に関しては、学校側から「どのように申し込めばよいか」「がん経験者の方へどのような配慮をすべきか」といった問い合わせが多いため、保健体育課からの説明に加え、長谷川様から実体験に基づいた具体的なアドバイスをいただくことで、現場の不安を解消する内容として調整しております。
動画の配信期間は、8 月 10 日頃から 9 月 30 日までを予定しております。以上です。

片山座長:
ありがとうございました。本件について、ご質問やご意見はございますでしょうか。
特になければ、次の議題へ移ります。

(3) 令和 8 年度 外部講師を活用したがん教育事業に係る実施校募集要綱について
片山座長:
次に、議題「令和 8 年度 外部講師を活用したがん教育事業に係る実施校募集要綱について」、事務局より説明をお願いいたします。

大矢（事務局）:
資料 4「実施校募集要綱」を画面共有いたします。
各学校へは、本年 3 月に本要綱を送付し、すでに募集を開始しております。

事務局としては、単に授業を行うだけでなく、事前・事後の指導を組み合わせて保健の授業の中で体系的に取り組んでいただくこと、また「自他の健康と命の大切さについて学ぶこと」を主眼に置いて実施を促しています。
また、保健体育に限らず、他教科での実践事例も紹介しながら、学校訪問や指導主事会などあらゆる機会を通じて周知を図ってまいりました。

最近の学校種ごとの傾向は以下の通りです。

小学校: 道徳の時間を中心に、「命の大切さ」を考える視点から外部講師を活用するケースが多く見られます。
中学校: 道徳的なアプローチに加え、事前に教員が保健の授業を行い、その知識を前提とした上で外部講師を招くというパターンが増えており、概ね半々といった状況です。
高校などでの最近の傾向: 1 学年全体を集めた大きな講演会形式ではなく、クラスごとに神奈川県がん患者団体連合会から個別にサバイバー講師を派遣していただき、各教室で少人数に対して語りかける対話型の授業スタイルが増加しています。
学校側の多様なニーズや状況に応じて柔軟に調整・派遣を行っております。以上です。

片山座長:
大矢先生、ありがとうございました。本件について、ご質問やご意見はございますでしょうか。
よろしければ、次の議題へ進みます。

(4) がん教育動画教材の活用について
片山座長:
続きまして、議題「がん教育動画教材の活用について」、事務局より説明をお願いいたします。

大矢（事務局）:
資料 5 をご覧ください。動画教材の活用状況と更新についてです。
昨年度、片山先生や神奈川県がん患者団体連合会の皆様にご協力いただき、新たに動画を 4 本追加作成いたしました。これにより、計 5 本の動画が揃い、本年 5 月 14 日に県立高校等に向けて保健の授業等での積極的な活用を依頼いたしました。
動画教材の大きなメリットは、1 本あたり 5 分〜15 分程度と短く構成されているため、授業の導入や振り返りなどで繰り返し活用しやすい点にあります。
がん経験者出演の動画: 患者さんの生の声を通じて、共感的理解や命の大切さを学ぶことができます。
医療関係者出演の動画: がんの仕組みや予防、治療に関する専門的かつ正確な理解を深めることができます。
本来は全校に対面での外部講師派遣を行いたいところですが、予算や講師の数の都合上、対面が難しい学校に対しても、動画を通じて公平に質の高いがん教育の機会を提供できるよう、本教材を整備しております。

現在、YouTube 上に限定公開等でアップロードしており、視聴回数（アクセス数）の推移は追えるものの、「どの学校が、何クラスで活用したか」という詳細な実施状況までは正確に把握できておりません。教職員の働き方改革の観点から、全校に対して負担となるような一斉アンケートを行うことは慎重に避けるべきですが、どこか適切なタイミングで活用アンケートやヒアリングを行い、使い勝手の向上や今後の改善点について検討したいと考えております。

片山座長:
ありがとうございます。視聴回数そのものは YouTube の管理画面等で追えるかと思いますので、ぜひ次回の協議会等で一度分析結果をご共有いただけますと幸いです。

また、作成した動画につきまして、現在は教職員向け・県立学校の授業向けに配布されていますが、児童生徒だけでなく、保護者や一般県民の方々への周知・案内などは行われているのでしょうか。

大矢（事務局）：
その点については課題がございまして、令和 4 年度に作成した第 1 弾の動画に関しましては、すでに県のホームページで公開している「神奈川県がん教育ガイドライン」の中にリンクが掲載されているため、一般の方もアクセスし視聴可能な状態（オープン）になっております。
　一方で、昨年度追加した新しい動画（計 4 本）につきましては、片山先生や出演いただいたがん経験者の皆様に、公式な「一般公開（県の HP でのオープン公開)」の許諾をまだ正式に得ていない状況です。そのため、現在は県立学校内での限定的な活用に留めております。
もし、一般公開の許可をいただけるようでしたら、県のホームページ等から検索し、広く県民の皆様にも視聴していただけるようにアップロードし直したいと考えております。これにつきましては、協議会の後日、改めて個別に正式にご相談させていただけますでしょうか。どうぞよろしくお願いいたします。

片山座長:
承知いたしました。長谷川さんたちとも是非ご検討いただき、前向きに進めていきましょう。よろしくお願いいたします。

(5) 令和 8 年度 外部講師養成について
片山座長:
続きまして、議題「外部講師養成について」です。これについては、がん・疾病対策課様よりご説明をお願いいたします。

近藤氏（がん・疾病対策課）：
がん・疾病対策課の近藤です。資料 6 を画面共有しながら説明させていただきます。
外部講師の養成事業につきましては、「医療関係者向けセミナー」と「がん経験者向けセミナー（研修会)」の 2 つの柱がございます。

① 医療関係者向けセミナー
例年、秋口から冬にかけて実施しており、今年度は 11 月から 12 月にかけて計 2 回の開催を計画しております。ただし詳細な調整を進める中で、今年度は「1 回のみの開催」となる可能性がございます。

背景といたしましては、例年、武田薬品工業と中外製薬の 2 社から共催（ご支援）をいただいておりましたが、本年、武田薬品工業様より「国内の営業体制の大幅な縮小にともない、今後は自治体連携事業の範囲を絞り込む（AI を活用した遠隔医療や、ドローンによる医薬品デリバリー等の特定分野に注力する）」との方針変更があり、がん教育セミナーへの共催を今後は辞退したいとの申し出がございました。同社では、この 10 年間で国内営業人員が約 1 万 5,000 人から 1 万人前後へと半減している事情があるようです。

そのため、今年度は中外製薬様と緊密に連携し、1 社のご支援のもとで、できる限り例年通り 2 回の開催を維持できるよう調整を進めてまいります。来月 8 月 7 日には、片山先生、佐々木先生、大矢先生、そして中外製薬の担当者である下沢様をお招きし、第 1 回のキックオフミーティングを行う予定です。

② がん経験者向け外部講師養成研修会

こちらは、がんサバイバーの皆様を学校の外部講師として養成する研修です。先月（6 月）に 1 回目の座学研修（オンライン）を、そして今月（7 月）12 日には対面での「模擬授業研修」を実施いたしました。

1 回目のオンライン座学には約 40 名の方にご参加いただき、学校の特性や子どもたちに響く話し方の基礎知識を学んでいただきました。その後、実際に教壇に立つ意欲を持たれた 9 名の方が、先日の模擬授業研修（対面）に進まれました。

模擬授業では、お一人 20 分ずつのプレゼンテーションを行っていただき、がん患者団体連合会の天野様、長谷川様から「ここはもっと良くできる」「この言葉は子どもたちに伝わりやすい」といった実践的なフィードバックを送り、講義内容を徹底的にブラッシュアップいたしました。

担当者としての私の個人的な感想ですが、皆様のご自身の闘病や葛藤といった「体験談の持つ力」は凄まじく、聞いているだけで子どもの心に深く突き刺さり、命の尊さを考えさせる素晴らしい内容ばかりでした。まさに本制度の趣旨である「子どもの『生きる』を応援する」に合致した講師陣が誕生しつつあると実感しております。

なお、今回の研修会には、宮城県の健康推進課の皆様が視察（オブザーバー参加）に来られました。宮城県の担当者様からは「このように県が主体となって『がん経験者』をシステマティックに外部講師として養成・登録している自治体は、全国を見ても『神奈川県』と『佐賀県』の 2 県だけ。非常に先進的で、大変勉強になった」との極めて高い評価とお言葉をいただきました。

③ 外部講師リスト

現在登録されている外部講師の総数は 95 名 となっております。
すでに今年度も、いくつかの学校から具体的な派遣要請が入っており、調整を進めております。

1 件目: 湘南藤沢徳洲会病院の倉波先生の派遣を調整中。
2 件目: 学校側から「自分たちと同じ 10 代・若い世代の子どもたちが、病気やがんとどのように向き合っているかを説明してほしい」という極めて具体的なニーズがあり、県立がんセンターの専門医の先生の派遣を調整中。
④ がん教育教材の改訂について
昨年度の第 2 回協議会（1 月 27 日）での議論を踏まえ、改訂された教材（スライド・指導用資料）を、現在がん・疾病対策課のホームページに掲載しております。
今後さらに改訂を重ねる予定であり、特に今回は、かねてよりご要望をいただいておりました「こどもホスピス」に関する内容をスライド教材等にしっかりと盛り込み、紹介していく改訂作業を進めております。
私からの説明は以上です。

片山座長:
近藤様、非常に詳細なご説明をありがとうございました。
いくつか順番に協議をしていきたいと思います。

まず、医療者向けの指導者研修会が、企業の体制縮小によって「1 社（中外製薬）のみ」の支援体制になってしまうという点についてです。
これに関して、私と佐々木先生が深く関わっておりますが、我々医師は利益相反（COI）の観点等から、特定企業 1 社のみの主催事業に無報酬で登壇し続けることに問題（バイアスや利益誘導の疑いなど）が生じないか、という点が少し懸念されます。

以前、中外製薬の下沢様とお話しした際には、中外製薬様がここまで熱心に支援を続けてくださる原動力として、佐々木先生から「これは企業の営利目的ではなく、社会貢献（CSR）活動やブランディングとして非常に価値が高い取り組みである。自社のプレゼンスを大きく高めることができる」とアピールしていただいたことが、社内を動かす大きな力になったとお聞きしました。
もし、我々医師や県側から、他の製薬企業に対しても「がん教育のスポンサーとしてのブランディング価値」を上手にアピールできれば、新たな支援企業が参入してくれるのではないかと思います。佐々木先生、このあたりについていかがでしょうか。

佐々木委員:

ご紹介ありがとうございます。おっしゃる通り、私は各企業の担当者に対して、「これは単に薬の宣伝（営利目的）をする場ではない。企業が社会的な使命として、子どもの教育やがん対策といった『社会活動』にいかに貢献しているかを示す、絶好のブランディング（CSR）の場である」という点を強く訴えてまいりました。それに中外製薬様が非常に共感して乗ってきてくださったという経緯があります。

片山先生が懸念されている「COI（利益相反）」の面については、こちらから「ぜひ協力してほしい」とお願いして長年パートナーシップを築いてきた手前、1社になってしまったからといって、すぐにそのご支援を切るという選択は現実的に難しいと考えます。ここは当面、中外製薬様と一蓮托生で誠実に運営していくしかないと思っております。

ただ、その一方で、もし神奈川県の皆様（事務局）が許してくださるのであれば、我々医療者のネットワークから、がん領域に強みを持ついくつかの製薬企業に対して、「神奈川県のがん教育推進に、社会貢献スポンサーとして参画しませんか」という営業アプローチ（お声がけ）をしてみても良いのではないかと考えております。もちろん「薬の宣伝は一切しない」という厳格なルールを前提とした上でのブランディングです。もしそれでよろしければ、何社か思い当たる会社がございますので、私の方から声をかけてみたいと思いますが、いかがでしょうか。

鈴木氏（がん・疾病対策課・代理）:
佐々木先生、非常に貴重で前向きなご提案をいただき、ありがとうございます。県の担当課といたしましても、そのようなアプローチは非常にありがたく、実現可能性を探る価値があると考えます。ぜひ一度、このご提案を持ち帰らせていただき、課内および関係各所と検討をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

片山座長:
ありがとうございます。ぜひ前向きにご検討いただけますと幸いです。

次に、がん経験者の外部講師養成についてです。今年度は9名の方が模擬授業に進まれたとのことですが、長谷川委員、がんサバイバー養成の現場の温度感についてはいかがでしょうか。

長谷川委員:
神奈川県がん患者団体連合会の長谷川です。
私たちの養成研修は、丸1日の座学講義と、実際に20分間の模擬授業を行う丸1日の実践研修の「計2日間」で構成されています。今年度の参加状況は、最初の座学に約40名が

参加され、最終的な模擬授業（講師登録への挑戦）に進まれたのが 9 名でした。
「せっかく約 40 名いたのに、9 名（約 4 分の 1）に減ってしまったのか」と思われるかもしれませんが、例年このような割合で推移しており、私たちは少ないとは全く思っていません。

むしろ「教壇に立つというのはどういうことか」「自分自身の重い体験を、子どもたちに傷をつけずに、かつ響く形で伝えるにはどのような覚悟と技術が必要か」を真剣に考えた結果の数字ですので、間口を広く宣伝して関心を持ってもらい、その中から本当に熱意と適性を持った精鋭の講師が毎年 2〜3 名、4 名と誕生してくれることは、サバイバー団体としても非常に心強いことです。

研修の運営に関しては、会場費やオンライン配信などの諸経費がかかりますが、2 日間のうち 1 日はオンライン座学ですので、そこまで大きな予算が必要なわけではありません。足りない部分があれば県に相談しつつ、現在のスタイルで高いモチベーションを維持しながら進めていきたいと思っております。近藤さんをはじめ、県の担当者の皆様が一緒になって研修を盛り上げてくださることに、心から感謝しております。

片山座長:
長谷川さん、ありがとうございます。本当に地道ですが、素晴らしい講師が神奈川県から毎年誕生していることは誇るべきことですね。

続いて「がん教育教材の改訂」に関してです。今回は、子どもホスピスに関する内容が新規に盛り込まれるとのことですが、田川委員から資料を共有していただいておりますね。
大矢先生、画面共有をお願いいたします。

(事務局により資料「この瞬間を笑顔に みんなで支えて叶えたい」が画面共有される)

田川委員:
ご紹介いただきありがとうございます。横浜こどもホスピスプロジェクトの田川です。
画面に映していただいている資料は、私たちのミッションや活動内容をまとめたものです。

私たちの活動の根底には「この瞬間を笑顔に、みんなで支えて叶えたい」という想いがあります。日本の現在の医療・福祉制度の中には、実は「病気の子どもの『家族』を丸ごと支える仕組み（レスパイトケアや家族支援)」が十分に整備されていません。
私たちは、病気の子ども自身の豊かな時間を支えることはもちろんのこと、付き添うご家

族のレスパイト（一時休息・リフレッシュ）支援、きょうだい児（病気の子どもの兄弟姉妹）への支援、そして大切な子どもを亡くされた親御さんへの「グリーフケア（哀嘆のケア）」に力を入れて取り組んでおります。

今回、県のがん教育教材の中で子どもホスピスについて紹介していただけるとのことで、大変嬉しく思っております。教材に盛り込むにあたり、もしスライドの文字数が多い、あるいはもう少し簡潔にまとめる必要があるということでしたら、文言を短くリライトすることはいくらでも可能ですので、遠慮なくお申し付けください。

大矢（事務局）:
田川先生、貴重な資料と温かいメッセージをありがとうございます。事前にいただいていたにもかかわらず、返信が遅くなり申し訳ございませんでした。

本教材への追加箇所についてですが、県のがん・疾病対策課で作成しているスライド資料の中で、例えば「小児がん」についての解説の直後、あるいは「がん拠点病院」の紹介の次のスライドあたりに、この「こどもホスピス」の内容を 1 枚挿入するのが自然ではないかと考えております。
これにつきましては、本日の協議会後、または後ほどメールなどで、助友先生、佐々木先生、そして田川先生からも「どの位置に入れるのが、授業の流れとして最も効果的か」についてご意見をいただき、近藤さんと連携して具体的な改訂スライドの構成を固めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

片山座長:
ありがとうございます。スライドの位置については後ほどメール等で意見調整を行いましょう。
私個人の意見としては、子どもホスピスの「外観」の写真だけでなく、ぜひ「建物の中（内観）」の温かい雰囲気が伝わる写真（例えば 2 階の子どもたちが楽しそうに遊んでいるプレイルームの様子など）を掲載すると、授業を聞く子どもたちにも、そこが単なる「最期の場所」ではなく、「温かい日常を創り出す場所」であることが一目で伝わり、イメージが湧きやすいのではないかと思いますが、いかがでしょうか。

田川委員:
ありがとうございます。片山先生のおっしゃる通り、内観の温かい様子がわかる写真があった方が、子どもたちにもよりポジティブに、正しく伝わると思います。ぜひその視点で、写真を何枚か選定して、もう少し分かりやすいスライドに作り直してお送りさせていただきます。よろしくお願いいたします。

片山座長:
ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

6. その他・フリートーク（全体を通しての意見交換）
片山座長:
それでは、協議事項は以上となります。ここからは議題「その他」として、全体を通してご意見や共有したい情報がございましたら、委員の皆様より自由にご発言をお願いいたします。

二戸委員:
神奈川県中体連研究部の二戸です。全体的な事業計画や研修・募集要綱についてお聞きし、大変勉強になりました。
私の学校（平塚市立大野中学校）では、今年度、養護教諭がこの「がん教育指導者研修講座」を受講させていただく予定にしております。どうぞよろしくお願いいたします。

私の立場（中体連研究部、および正確な組織名としては「神奈川県中学校教育研究会 保健体育科部会」の部会長）から、少しご提案と協力できる点についてお話しさせていただきます。

先ほど、大矢先生から「動画教材の学校での具体的な活用状況を把握するのが難しい（働き方改革の関係で悉皆アンケートが難しい)」というお話がございました。
私たち中学校の保健体育科部会（研究部）では、実は毎年、各学校に対して保健体育の授業に関するかなりボリュームのある独自のアンケート調査を実施しております。このアンケートは、公式な校長決裁を通した行政的なものではなく、教科研究会（自主的な教員組織）の枠組みで、研究部員や子どもたちを対象に実施しているものです。

もしよろしければ、私たちの毎年行っているアンケート項目の中に、「がん教育動画教材の活用状況」や「外部講師の導入意向」といった数問の簡単な項目をシームレスに組み込ませていただき、データを収集・共有することは十分可能であると考えております。教育委員会（保健体育課）と私たち現場の研究部会とで連携を取りながら、どのような形であれば実態把握に協力できるか、今後ぜひコミュニケーションを取らせていただければと思います。

また、がん教育の教科横断的な広がりに関してですが、保健体育の授業だけでなく、道徳や特別活動（学級活動、学年集会等）での活用事例も多く見られます。

例えば、神奈川県には子ども教育支援課が所管する「命の授業」や、関連する「作文コンクール」等がございます。こうした既存の県の啓発事業やコンクールと「がん教育」を意図的にコラボレーションさせることで、外部講師の授業を聞いて感動した子どもたちが作文を書き、それがコンクールで表彰されるといった好循環が生まれるのではないかと思います。より深く、広くがん教育を県内に浸透・進化させるために、このような横断的コラボも非常に有効ではないかと考えております。長くなりましたが、以上です。

片山座長:
二戸先生、現場からの極めて具体的で温かい、そして非常に強力なご提案をありがとうございます。アンケートの共同実施や「命の授業・作文コンクール」とのコラボは、がん教育の浸透において大きなブレイクスルーになる可能性がありますね。

長谷川委員:
今の二戸先生のお話（作文コンクールとのコラボなど）に非常に関連する、素晴らしいタイミングのイベントがございますので、共有させていただきます。

私たち神奈川県がん患者団体連合会が中心となり、一般市民向けの大きながん啓発イベントを現在企画しており、ちょうど本日、チラシが完成いたしましたので画面共有にて紹介させていただきます。

（チラシ資料「一般市民向け がん啓発イベント」を画面共有）

長谷川委員:
本年の 10 月 4 日（日）、横浜みなとみらいの「クイーンズサークル」（非常に人通りの多い屋内イベント会場）にて、一般市民向けのがん啓発イベントを開催いたします。
「がんの啓発」と銘打ってはおりますが、実はステージに登場するメンバーの多くは、日頃学校でがん教育を行っている「外部講師（がん経験者・サバイバー）」たちです。一般の市民の皆様に、学校で行われている「がん教育」の中身や意義を広く知っていただくことが、このイベントの裏の大きなテーマ（目的）となっています。

当日は著名なタレントさんにもご出演いただきます。そして何より、先ほど二戸先生がおっしゃった「がん教育の授業を聞いて、作文コンクールで入賞した生徒さん」を実際にお呼びし、ステージ上でその素晴らしい作文を朗読・お披露目していただくコーナーを企画しております。
また、がん教育の授業を行った学校の部活動の生徒たちにもステージに上がってもらい、会場を盛り上げてもらうとともに、「がん教育の授業を聞いてどう感じたか」を生の声で語

ってもらう予定です。

本イベントは、神奈川県（がん・疾病対策課・教育委員会）および横浜市のがん・疾病対策課とも共催・後援をいただいており、当日は横浜市長様、そして黒岩神奈川県知事様にもステージにお越しいただき、共に盛り上げていただく予定になっております。
学校のがん教育を市民全体・社会全体で支え、盛り上げていくための非常に大きな一歩になると考えておりますので、情報共有とさせていただきます。ありがとうございます。

片山座長:
長谷川さん、素晴らしいイベントのご紹介をありがとうございます。教育委員会、知事、市長、そして学校の生徒やサバイバーが一同に会する、まさに神奈川県ならではの画期的なイベントですね。ぜひ成功を応援しております。

佐々木委員:
私からも１点、私たちの取り組みの紹介と、本協議会での「ご紹介のご許可」をいただきたい案件がございます。
先ほど、助友先生からも「神奈川県のがん教育（特に医療者向けの養成）は全国の先進モデルである」とお褒めをいただきましたが、実際に宮城県の健康推進課の皆様が神奈川の研修を視察に来られたというご報告がありました。

実は今月末に、宮城県の健康推進課と、中外製薬様の主催（講演）による「がん教育に関する共同セミナー」が開催されることになりました。そのセミナーにおいて、私が登壇させていただく予定です。

(資料「がん教育の発展に向けた取り組み」を画面共有)

佐々木委員:
スライド資料に「神奈川県におけるがん教育の発展に向けた取り組み」とタイトルを付けさせていただきました。
このセミナーにおいて、神奈川県のがん教育推進協議会の活動（どのような資料を使い、どのような議論がなされているか)、大矢先生からご報告のあった「学校での外部講師派遣の実施体制」、そして近藤さんからご報告のあった「がん経験者向けのシステマティックな講師養成研修」などの先進的なシステム・枠組みを、宮城県や他の自治体の皆様に向けて、神奈川県の誇るべき成功事例として広くご紹介したいと考えております。

もちろん、本協議会の非公開情報や個別の議論の詳細をお出しすることはございません

が、神奈川県が取り組んでいる一連の素晴らしいシステムを「神奈川県の事例」として公表・紹介することについて、本協議会の委員の皆様からご承諾（ご許可）をいただけますでしょうか。

片山座長:
素晴らしいですね。神奈川県の誇るべき先進的な取り組みを全国に広げていただく活動ですので、私としては大いに歓迎し、応援したいと思います。委員の皆様、よろしいでしょうか。

(委員の皆様、拍手やリアクションで賛同を表明)

片山座長:
全員一致で承認とさせていただきます。佐々木先生、ぜひ神奈川県の素晴らしいモデルを全国に向けて発信してきてください。よろしくお願いいたします。

佐々木委員:
皆様、ご快諾いただきありがとうございました。精一杯ご紹介してまいります。

片山座長:
それでは最後に、私からも 1 点、大きな共有事項がございます。画面共有をさせていただきます。

(片山座長より「がん教育外部講師の役割に関する全国調査」の資料が共有される)

片山座長:
がん・疾病対策課の近藤様にもご協力をいただき、本協議会の出席者である長谷川和夫さん、佐々木治一郎先生、そして（本日はご欠席ですが）聖マリアンナ医科大学の勝先生らとともに、ここ数ヶ月にわたって準備を進めてまいりました大規模な調査研究が、昨日、ようやくプレスリリース・公開の運びとなりました。

これは、**「全国初のがん教育外部講師（特にがん経験者）の役割に関する現状調査」**です。
神奈川県に留まらず、全国の外部講師（サバイバー講師）の皆様を対象に、

実際にどのような内容を学校で登壇・発信しているか
講師ご自身が「本当に子どもたちに伝えたい」と思っている熱意と、学校現場や学習指導

要領が求めているニーズとの間に、どのような「齟齬（ギャップ）や葛藤」が生じているか といった極めて繊細かつ本質的な課題を、アンケート調査によって定量的に炙り出すことを目的としております。
昨日、群馬大学の倫理審査および神奈川県立がんセンターでの実施許可が無事に下り、正式にアンケートフォームを公開いたしました。画面の QR コードから回答画面に進むことができます。
本調査の実施にあたっては、県の多大なるご協力により、全国の都道府県教育委員会様宛てに、本アンケートの周知とサバイバー講師の皆様への回答協力の依頼を出していただいております。
この調査から得られた結果は、今後の神奈川県のがん教育教材の改訂や講師養成プログラムの改善、ひいては次期学習指導要領改訂期における全国のがん教育のあり方に大きな影響を与えるデータになると確信しております。分析結果が出ましたら、また本協議会にていち早くご報告させていただきます。近藤様をはじめ、ご協力いただいた皆様にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

近藤氏（がん・疾病対策課）:
片山先生、アンケートの正式公開おめでとうございます。素晴らしい調査の実施にあたり、微力ながらお手伝いできたことを嬉しく思います。引き続き、全国への周知等も含め、しっかりと連携してサポートさせていただきます。よろしくお願いいたします。

片山座長:
近藤様、よろしくお願いいたします。

以上で、本日の全ての議題、および各委員からの情報共有が終了いたしました。最後に、事務局（大矢先生）にお返しいたします。よろしくお願いいたします。

7. 閉会
大矢（事務局）:
片山座長、ありがとうございました。そして委員の皆様、本日は長時間にわたり、非常に有意義で熱心なご議論と、貴重なご意見・ご提案をいただき心より感謝申し上げます。いただいたご意見は、今後の今年度のがん教育事業にしっかりと活かしてまいります。

アンケート実態把握に関する連携: 二戸先生から中体連（中学校体育科部会）のアンケートに「がん教育」の項目を組み込んでいただけるという大変ありがたいご提案をいただきました。さっそく、保健体育課内の「学校体育指導グループ」とも緊密に連携を取り、どのような設問であればスムーズに実施可能か、大矢より直接ご相談をさせていただきま

す。
市町村教育委員会への周知: 動画教材の活用について、10 月・11 月に保健の授業でがんを扱う学校が多いという実態を踏まえ、市町村の教育委員会に対しても、早期に動画の活用方法やアンケート協力を促す周知を早急に発出してまいります。

二戸委員
研究部のアンケートの協力は来年度になると思います。(ニーズの把握や活用状況について)

大矢
承知しました。最後に、次回「第 2 回がん教育推進協議会」の日程についてお知らせいたします。
来年（令和 9 年）1 月下旬での開催を予定しております。年内（12 月中旬頃）に、皆様へ日程調整のご連絡をさせていただきますので、その際はご返信のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。
私からは以上となります。ありがとうございました。

片山座長:
大矢先生、ありがとうございました。
以上をもちまして、令和 8 年度 第 1 回神奈川県がん教育推進協議会を閉会いたします。本日は長時間のご審議、誠にありがとうございました。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

(全員: ありがとうございました。)